

みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 17 NO. 3

(通巻62号)

平成元年11月15日発行

編集・発行人 竹内一雄

〒260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎0472-42-8311 (代表)

カス・パール・ダーヴィト・フリードリヒ

「山中の十字架」 油彩 一八一一年頃

フリードリヒは風景における悲劇の発見者と言われます。彼は、7歳の時に母を失い、その6年後、アイススケートをしている時に氷の割れ目に落ちた彼を助けようとした弟

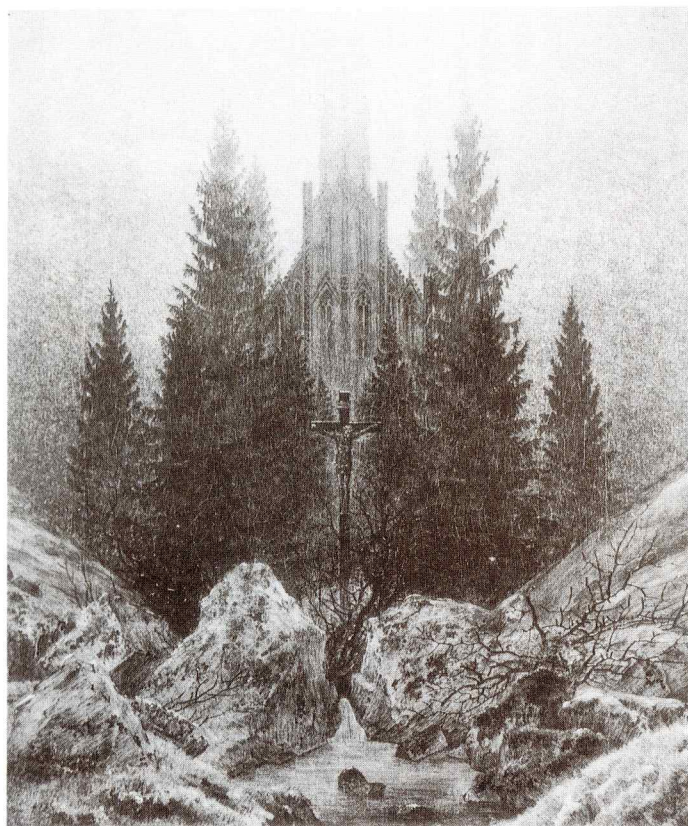
を身代わりのような形で亡くしています。その時の罪悪感から彼は、自殺未遂を起こしていますが、その体験は彼のメランコリックな世界観、悲劇的といわれる作風をもたら

した一因と思われます。

彼の世界観は、ゲルマン民族特有の汎神論などと結びつき、彼独特の宗教観となつて、自然の姿を貸りて表現されました。彼は「画家は眼の前に見える対象だけを描くべきではなく、己れ自身の内奥をも描かねばならぬ。もし、内奥に何一つ描く対象がなければ、その時、彼は眼前の対象をも描くのを止めて筆を折るべきであろう。」と言います。また「神的なものは一本の草にも宿る」とも語っています。彼が追求したのはビジョンとしての自然であり、象徴としての風景でした。

この作品に於いても、それぞれのモチーフは宗教的な意味を象徴しています。十字架は変わらぬ信仰の証を、常緑の樅の木は、変わらぬ愛と希望を、沈みゆく太陽は古いキリスト教世界を表していると言われます。この絵は人間が未だ踏み込んだことのない荒地を思わせ、全ての精神の旅路の果てに垣間見る光景の様でもあります。この象徴的風景画は従来の宗教画に劣らぬ内容の深さと共に、新しい絵画の時代を予告しました。

(相川 順子)



特別展

ドイツ・ロマン派19世紀絵画展

フリードリヒからベックリンまで

89・11・18(土) 12・24(日)

本展覧会では、自然主義や象徴主義、超現実主義などの母胎となったドイツ・ロマン派の19世紀絵画をとりあげました。

18世紀末、それまで旧教と絶対君主制の支配下にあった欧州は、産業革命、フランス革命、続くナポレオンの盛衰

など、激動の時代を経て、近代の幕明けとなりました。そして、それら一連の変革の影響は、芸術の面でも、新たな運動を起こす契機となりました。

つまり、それまでの新古典主義や啓蒙主義が、封建制の時代の中で、調和・秩序・良識・理性といった「抑制の美

徳」を目指し「形式の美しさ」を追求したのに対し、新興したロマン主義は、市民の時代を背景に、自由な感情表現

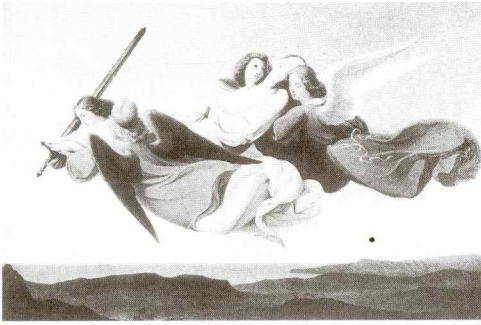
(表現の自由)や人間性の復権(個性の尊重)をめざしました。そして、このような主張は各地において、その国情や民族性と結びつき、様々に発展していきました。

ドイツの場合もそうでした。

ドイツは、19世紀初めにはナポレオンにより解体されて数十の国となりました。

その後、ウィーン会議で35国4自由都市から成るドイツ連邦となりましたが、ドイツ人は長年の夢である統一国家の成立が容易に果たされない状況のなか、一民族としての同一性の証を音楽、文学、美術などの芸術に求めました。それらの芸術の中には、ゲルマン民族特有の汎神論、敬虔な信仰心や死後の世界への考えがよく表現されています。

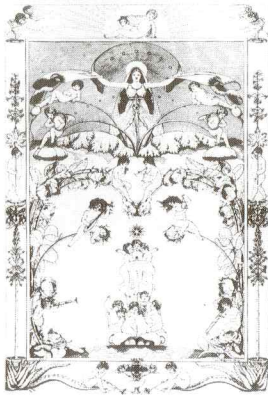
特に美術の世界では、デューラーなどが活躍した中世を自由で純粹な精神と素朴で職人的な技術による古き良き時代と捉えました。またロマン主義は前に述べたように理性の支配を超えて主観を表現しようとする一面があるので、空想や夢想の世界を表現するのに、中世の伝奇物語などが用いられました。そのような傾向のためか、ロマン主義は不健康な思想だという人もいます。それは、現実から逃避して過去に向かうとし、史実としての過去というよりも作者の想像上の過去を意味し、作者が心に描いた郷愁や憧憬、無常観といったものを、文学や自然をモチーフに形象化



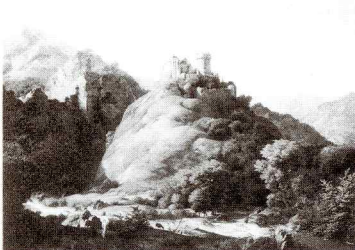
H・A・ミュッケ「シナイ山へ移送される聖カタリーナの亡骸」



C・D・フリードリヒ「教会のある冬の景色」



P・O・ルンゲ
「一日の時間帯」



J・W・シルマー「ロマンチックな風景(アルテナールの城)」



J・P・ハーゼンクレヴァー「感傷的な娘」



A・ベックリン「眠るダイアナとひそかにうかがう二人の女神」



M・L・B・ヴォチェ「裁縫学校」

(象徵化) したためでしょう。もっとも、過去の時代への憧れは、新古典主義の時代から続いたものでした。ポンペイ等の古代都市の発掘、ヴィンケルマンの「古代美術史」、ナポレオンの古代美術愛好などの影響で、古代ギリシャ・ローマへの強い憧れが起こり、新古典主義・ロマン主義の芸術家達は、数多くイタリアに遊学しています。風土の点からみても、イタリアはドイツとは正反対であり、両国は、古くからお互いに魅了しあってきたといわれます。

イタリアへ遊学したドイツ・ロマン派の画家達の中に、ナザレ派という一団がいました。彼らは当時のウィーン・アカデミー等での模写中心の機械的訓練の繰り返しに疑問を抱き、中世ドイツの精神とイタリア・ルネッサンスの技法を融合しようと試みました。そして、ローマの修道院に住み、宗教的戒律のもとで制作に励みました。長髪に黒衣の修道僧のような姿で、フラ・アンジェリコやジョットーのように神に仕える画僧を理想としたのです。しかし、それは決して懐古趣味ではなく、過去の内面性を現代に甦らせようとするものでした。彼らは、ローマでフレスコ画による壁画などを制作した後、その殆どが祖国へ戻り、各地のアカデミーで教鞭をとります。その流れは、後のラファエロ前派などへ受けつがれました。

前述で、ドイツ・ロマン派の画家達は、文学や自然をモチーフとして心に描いたものを形象化したことを記しましたが、特に風景に象徴的意味を与えた絵画は、それまでにないものでした。当時のロマン派の詩人で画家のウィリアム・ブレイクは「一粒の砂に世界を見、一輪の野の花に天国を見る」と語っています。有限な自然の内に、無限で普遍的な神や宇宙の姿を表現したのが、ドイツ・ロマン派です。動きと色彩の豊かなフランス・ロマン派とは、同じロマン派でも対象的であり、ドイツ人らしい内省的な情緒は、どの作品にも共通したものと いえます。そのような情緒を表現するモチーフとして、画家達に好んで描かれたものは、窓、難破船、修道院、墓地、出船・入り船、廃墟、日没と日の出、荒涼とした樹林、月光

の下などの幻想的風景でした。文学では、中世の伝奇物語のほか、北欧の民族的叙事詩もよく用いられています。ドイツ・ロマン派の象徴的傾向は、19世紀後半には、より自由な感性の表現を見せて、夢想的な傾向を強めていきました。その様な傾向は、ベックリンに代表されます。彼は神話などをモチーフに、創作画を多く描いています。ロマン派の絵画は、個性の解放を実現したことで、近代絵画の始まりとして評価されています。

ドイツ・ロマン派の53作家の油彩70点、水彩・素描45点を宗教画・歴史画・肖像画・風俗画・社会批判絵画の5テーマによって構成しています。ドイツ・ロマン派は、日本では数える程しか紹介されていませんが、ロマン派の足跡はドイツ抜きには語れず、その存在は大きいものです。本展では、今まであまり紹介されていないナザレ派の作品をはじめ、フリードリヒ、ルンゲ、ベックリンなど代表的作家達の作品を紹介しています。

＜主な出品作家＞
フリードリヒ、カールス、レスニング、シルマー、ゾーリン、ミューケ、ペンデマン、リヒター、ベックリンほか
(相川 順子)

◇会期

平成元年11月18日(土)～
12月24日(日) 午前9時～
午後4時30分(入場は4時
まで) 月曜休館

◇観覧料

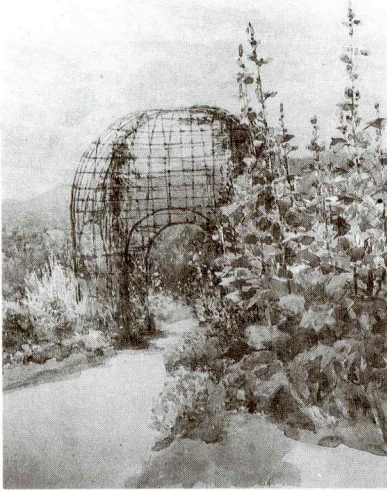
一般500円(300円) 高・大学
生300円(200円) 小・中学生
200円(70円) ()は20名以
上の団体料金。

第13回 千葉県移動美術館開催

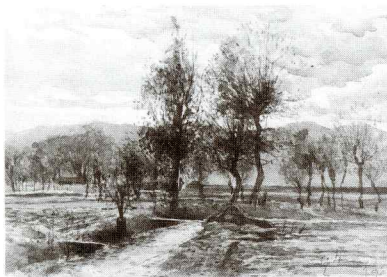
千葉県移動美術館は、千葉県にかわりのある作家の作品や、国内外の優れた作家の作品を、より多くの県民の方々に鑑賞していただくため、毎年、県内2会場で行っているものです。

38作家、46点を紹介します。
＜日本画＞
 富取風堂〓葛西風景
 高畑郁子〓メスティーソの女達
 後藤純男〓山門雨後
＜洋画＞
 浅井 忠〓フォンテンブローの夕景・京都高等工芸学校の庭

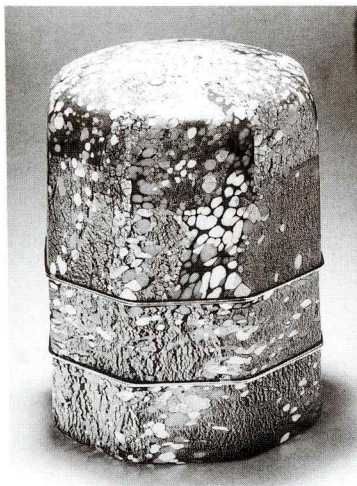
今年度は、第13回目を迎え、鎌ヶ谷市三橋記念館と酒々井町中央公民館を会場として、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・版画の各分野から、館収蔵作品をご紹介します。
 なお昨年度に引き続き、千葉県芸術祭参加事業である千葉県美術展覧会（県展）の今年度受賞作品を併せて展示し、



浅井 忠 「京都高等工芸学校の庭」



長谷川良雄 「晩秋」



藤田喬平 「飾筥・しだれ桜」

＜版画＞

浜口陽三〓西瓜

パリの屋根

190と1匹

深沢幸雄〓虚空に乱れる

渦状生雲

戦慄（トルソ）

星 襄一〓星の森（大）

王の樹

野の木（A）

＜第41回県展受賞作品＞

上田 廣〓日本画、県展賞

「生（淡墨桜）」

中島敏明〓洋画、県展賞

「ジブシー」

紫田良貴〓彫刻、県展賞

「腕をあげた女」

湯野川 恵〓工芸、県展賞

「線刻の器」

川口溪仙〓書、県展賞

「安處即為郷」

座間騰青〓書、文部大臣奨励賞

「唐詩」

ぜひこの機会にご覧ください。

開催場所、会期、時間等は次のとおりです。

鎌ヶ谷市三橋記念館

11月22日（水）～12月4日（月）

☎〇四七四（45）三二〇一

酒々井町中央公民館

12月7日（木）～12月19日（火）

☎〇四三四（96）五三二一

285 酒々井町中央公民館

時間〓午前9時30分～午後4時30分

休館日〓無休・無料

休館日〓無休・無料

休館日〓無休・無料

休館日〓無休・無料

休館日〓無休・無料

休館日〓無休・無料

新収蔵作品紹介

平成元年度に収蔵された作品は次のとおりです。

(平成元年十月三十一日現在)

寄贈

寄贈いただきました作品は次のとおりです。ここに厚く御礼申し上げます。

〔洋画〕

秋元まつ氏より
笹岡了一作

「天使とヤコブの闘い」

(油彩一九五)

「山西」

(油彩一九四)

大久保彩司氏より

大久保作次郎作

「庭の木陰」

(油彩一九六)

「海水浴帰り」

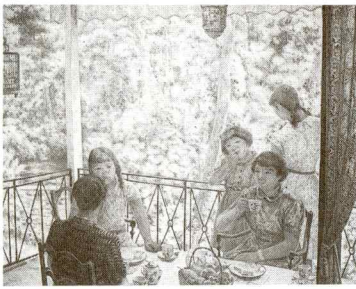
(油彩一九七)

「山へ」

(油彩一九〇)

「ヤッホー」

(油彩一九九)



大久保作次郎「お茶どき」



コラン「田園」

購入

「お茶どき」 (油彩一九五)
「風」 (油彩一九五)
チャールズ・ワグマン作
「松島風景」 (水彩八八)
五百城文哉作
「日光」 (水彩)

〔洋画〕

間部時雄作

「川沿いの家」

(油彩)

「寒林」

(水彩)

「田中の牧場」

(水彩)

笹岡了一作

「孟母の家」

(油彩一九三)

ラファエル・コラン作

「田園詩」

(油彩一九三)

ジャン・ポール・ローランス作

「カルカッソンの幽閉者の解放」

(油彩)

基金取得

アントニオ・フォンタネージ作

「木立」

(油彩八七頃)

「池と樹木」

(油彩八七頃)

「牛を追う農婦」

(油彩)

「森の空地の農婦」

(油彩)

「水汲み場風景」

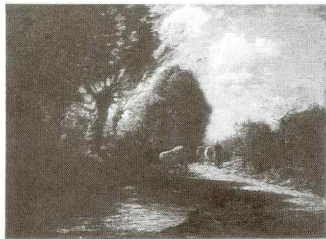
(油彩八八頃)

「風景1」

(木炭パステル)

「風景2」

(木炭パステル)



フォンタネージ「牛を追う農婦」

情報資料室から

— 寄贈図書を紹介 —

○著作集・評論集

「十三松堂日記」

正木直彦著

「様式の歴史」

澤柳大五郎著

「黄銅への道」

蓮田修吾郎著

「森桂一作品・論文集」

「三岸好太郎・天折のモダニスト」

工藤欣弥・寺島弘道著

「片岡球子—個性(こころ)の旅路」

奥岡茂雄著

「心中櫻ヶ塚」

草間彌生著

「人間と空間—21世紀への序奏」

「国際絵画市場」

藤井一雄著

○画集・作品集

「KAII HIGASHIYAMA」

「東山魁夷第二・三巻」

「山河遍歴 東山魁夷作品集」

「富永直樹彫刻作品」

「石井滋作品集」

「山本正道作品集」

「舟越保武」

「寺田政明画集」

「笹岡了一画譜」

「山田菱夏作品集」

「中道誉伯画集」

「飯島春敬作品集」

「金子鶴亭回顧展作品集」

「庭野日敬画集」

「石橋犀水の書業」

「沙と祈り 千代倉桜舟作品集」

「日本の水彩画1 大下藤次郎」

「日本の水彩画2 小山周次」

「日本の水彩画7 小堀進」

「日本の水彩画12 石川欽一郎」

「日本の水彩画13 白瀧幾之助」

「日本の水彩画14 三宅克己」

「日本の水彩画18 赤城泰舒」

「日本の水彩画20 不破章」

「現代の日本美術」

「第27回日本現代工芸美術」

「第19・20回日展」

「杉洗会」

「近代フランス巨匠特集」

○技術書

「現代美術演習II」

「芸大・美大進学のためのデッサンの基礎」

○年鑑他

「日本美術年鑑昭和62・63年版」

「多摩美術大学50年史」

「日本美術院百年史・上・下」

「国立西洋美術館30年史」

「石橋財団30年史」

「東京富士美術館・富士美術館」

「市展40年史(小樽市美術展覧会)」

「世田谷美術館所蔵品目録①北」

「大略魯山人」

○一般書

「いのり 原爆II」

「立原えりか絵・島田勝吾絵」

「ビジュアルワイド新日本風」

「土記12 千葉県」

「房総の魅力500選自然・歴史編」

「この他多くの図書の寄贈を」

「いただき、計78冊受入れまし」

「た。厚く御礼申し上げます。」

かたる・つくる

(美術を語る会・実技講座等)

美術館実技講座

【書芸講座(2)】

期日 12月5・6・7日
講師 浅見錦龍氏
定員 25名
内容 漢字
締切 11月21日(火)
会場 千葉県立美術館研修室

【版画講座】

期日 1月23・24・25・26・30・31・2月1・2・6・7・8・9日
講師 増田 陽一氏
定員 20名
内容 銅版画／ドライポイント、アクアチントなど

【洋画講座(3)】

期日 1月24・25・26・30・31・2月1・2・6・7・8日
講師 伊牟田經正氏
定員 30名
内容 油彩／静物、人物
締切 1月10日(水)
会場 第1アトリエ

友の会実技講座

【版画入門講座】

期日 11月29・30・12月1・5・6・7・8日
講師 牛政健治氏
定員 30名
内容 銅版画／ドライポイント、アクアチントなど

【洋画入門講座】

期日 12月13・14・16・17・19・20日
講師 松沢茂雄氏
定員 30名
内容 油彩／裸婦(15号前後)
締切 11月29日(水)
会場 第2アトリエ

【てん刻入門講座】

期日 12月15・16・17日
講師 鈴木知秋氏
定員 30名
内容 自分名前などを刻む
締切 12月1日(金)
会場 第1アトリエ

【時間】

美術館講座 12時30分～4時30分
友の会講座 10時～4時

◎申し込み方法 各講座とも住復はがきに、希望講座名・住所・氏名・電話番号・年令を明記のうえ、美術館普及課、(友の会講座は友の会事務局)までお申し込みください。
※復信用にも必ず、ご自分の住所・氏名をお書きください。

◎申し込み者が多い場合には抽選により参加者を決定いたしますのでご了承ください。
◎都合により、時に講座日時・日程に多少の変更が生じる場合があります。



美術講演会

○第3回

日時 12月9日(土)午後2時
会場 講堂
演題 北方ロマン主義の絵画
講師 坂本満氏(美術評論家)
対象 一般200人(申込制)

美術を語る会

○第7回

日時 11月25日(土)午後2時
主題 彫刻と環境デザイン
講師 中島幹夫氏(彫刻家)

○第8回

日時 12月2日(土)午後2時
主題 絵画の修復について
講師 大原秀之氏(絵画修復家)

○第9回

日時 1月20日(土)午後2時
主題 抽象版画のイメージと私の表現
講師 増田陽一(版画家)
※会場 研修室
対象 一般30人
なお、いずれの会も無料

千葉県教育功労者表彰

11月1日、平成元年度千葉県教育功労者表彰が行われ、友の会並びに館長が受彰しました。

○千葉県立美術館友の会
昭和50年に結成されて以来、美術館活動を側面から支援し、また、本県芸術文化の普及・振興に寄与した功績。

○竹内一雄館長
本年四月より館長に就任されたが、この間、本県教育行政に尽力し、博物館建設及び県民文化の振興に努め、本県教育の進展に寄与した功績。

日誌抄

8・26 第4回美術を語る会(講師武田武弘氏)
9・9 特別展「白樺派と近代美術」(10・15)
9・16 第5回美術を語る会(講師小池賢博)
9・26 美術館協議会
9・30 第2回美術講演会(講師瀬木慎一氏)
10・18 県博協県外研修(19)
10・25 利用団体連絡会議
10・26 県立館学芸・普及課職員研修
10・28 第6回美術を語る会(講師中村象閣氏)